

八葉山 天台寺 だより 第6号

天台寺本堂・仁王門保存修理工事現況報告

平成29年度の保存修理工事では、本堂の屋根板を葺く作業が始まりました。大正時代以降は耐久性の問題などから瓦や銅板で葺かれていた屋根ですが、元々は板材を重ねる「とち葺」という手法が用いられていました。文化庁からの指導もあり、今回の工事では本堂の文化財建造物としての価値をより高めるため、厚さ1cm程の杉板を用いてこの「とち葺」を復原していきます。完成の暁には江戸時代前期の姿が甦ることでしょう。

「とち葺」に使われる板には、ご寄進2,000円以上でお名前や願い事などを書くことができます。本堂の屋根に長く残りますので、是非ご参加ください。

また、本堂に使用する材料では、主要部分に桂の木が多く使われていることが調査で判明しました。建築材料に桂材が多用される例は全国的に見ても珍しいため、これは「桂泉観音」とも呼ばれていた天台寺への信仰の表れであるとともに、昔は桂の木がたくさん自生していたらうと言えそうです。今回の工事では長さ5mにも及ぶ桂材を長野県の木材会社から仕入れ、本堂の桁という部分に使っています。

以下、工事進捗状況を写真にて報告いたします。今後ともご支援、ご協力をお願いします。



軒先での屋根葺き作業。厚さ1cm程の杉板を竹釘で打ち付け、雨漏りがしないよう何重にも重ねていく



本堂縁周りの作業状況。桂材も用いられていた。
風雨で傷みが激しかった箇所は新材に取り替えている



本堂床板・床組の作業状況



本堂内陣の天井組立状況

5月5日（土）午前10時～午後4時まで、天台寺保存修理工事現場の公開をいたします。詳細については、ホームページで確認願います。

<写真提供>公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

天台寺保存修理事業へのご寄進を随時受け付けておりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

<寄進方法>

郵便振替（ゆうちょ銀行）口座 02230-1-106184 天台寺本堂等修復事業推進委員会
〒028-6942 岩手県二戸市浄法寺町御山久保33 八葉山 天台寺（TEL・FAX:0195-38-2500）

（題字「天台寺」は、南北朝時代・正平18年（1363）に奉納された銅罏口の銘で、現存資料中寺名が記された最も古いものです。）